附公文ニ對シ支那側カ何等回答ヲ爲ササル儘清津領事館新設ヲ通報越セルハ支那側ニ於テ帽兒山等三館ノ開設ニ同意シタルモノト了解シ右開設ニ着手スヘキニ付其ノ旨本國政府ニ傳達アリ度趣回答スルト共ニ朝鮮當局ニ對シテハ本件何分ノ決定ヲ見ル迄新任清津領事ト立入リタル接觸ヲ差控ヘシムルコトトシタル處一方馬領事ハ六月十一日館員ト共ニ清津ニ來住シ假事務所ヲ設ケタル趣ナリ追テ清津ニ支那領事館設置ニ關シ當時朝鮮總督府ヨリ同總督府トシテハ別段異存ナシ但朝鮮軍側ニ於テハ軍事上ノ見地ヨリ同地ニ外國領事館ヲ設置スルコトニハ同意シ難キモ若シ外交諸般ノ關係上大局ヨリ見テ清津ニ設置承認已ムヲ得ストト認メラルル場合ニハ國境防備ノ見地ヨリ同時ニ從來ノ懸案タル帽兒山領事分館ノ設置ヲ主張シ居ル趣回示アリタリ

一、滿洲國成立ト共ニ洮南及帽兒山領事館設置問題、朝鮮防備上ノ問題等ハ事態變更セルモノト認メラルル處在清津滿洲國名譽領事新設ト共ニ支那側トシテハ法理上ハ日支通商航海條約第三條第三項「、、、、他國ノ領事官、、、、」云々ヲ引用シ清津領事館ノ正式開館乃至ハ支那領事ノ正式待遇等ヲ要求シ得ル次第ナル處此ノ場合若シ我方ニ於テ支那領事官ノ清津駐在ヲ希望セサルニ於テハ洮南、帽兒山ノ代リニ海州梧州等ヲ要求シ事實上支那領事館ノ新設ヲ延引セシムルモ一案ナルヘク(「他國ノ領事官」ナル辭句ハ名譽領事ヲ含マストノ說モアル由)或ハ支那側ヲシテ現在ノ(昭和九年五月二十四日丁參事官ノ桑島局長ニ對スル談話ヨリ察スルニ支那側ニ於テハ清津ニ元山領事館出張所ヲ設ケ今尙所員ヲ常駐セシメ居ルモノノ如シ)清津駐在支那領事官ヲ一應元山等ニ引揚シメタル後更メテ清津開館方要望セシメ其ノ上ニテアツサリ之ヲ許可スルモ可ナルヘク何レニセヨ滿洲國側トノ關係ヨリ發生スルコトアルヤモ計リ難キ本件支那側トノ交涉ハ事實甚タ迂遠ノ問題ナルノミナラス將來萬一其ノコトアリトスルモ其ノ際ハ我方ノ腹次第ニテ政治的ニ可然ク解決ヲ遂ケ得ヘキ問題ナリト認メラル

2　滿州国における邦人への課税問題

526　昭和9年2月2日　在滿州国菱刈大使より広田外務大臣宛(電報)

滿州国による邦人への糧商営業税課税黙認方意見具申

新京　2月2日後発
本省　2月3日前着

第一三二號
本使發在滿各領事宛電報[1]
合第五四號
一、二十九日源田稅務司長及田村國稅科長吉林稅務監督署員ト共ニ來館間島地方朝鮮人穀物商ハ糧商營業稅法(客年十一月三十日附政府公報參照)ニ基ク申告書提出ヲ拒ミ居ル處本來滿洲國財政部ニ於テハ右糧商營業稅法ト同時ニ公布シタル出產糧石稅法ノ默認方大使館側ニ諒解ヲ求メタル際右營業稅法ノ默認ヲモ含メタル趣旨ナリシモ說明不充分ナリシ結果大使館ヨリ領事館ヘ發シタル訓令ハ單ニ出產稅ノミトナレル次第ナルカ滿洲國トシテハ從來ノ出產稅ヲ整理シ之ヲ一律ニ低下シ又銷場稅ヲ廢止スルニ至レル等極メテ合理的ニ關係稅法ノ整理ヲ行ヒ居リ稅率モ左シテ高カラサルニ付テハ本稅默認方御盡力ヲ請フ旨申出來リタリ右ニ對シ係官ヨリ本件營業稅ハ出產稅ト異リ實質ハ兎ニ角形式ハ直接稅ナルヲ以テ大臣宛往電第一四五三號(編注)ニ對スル本省回訓ナキニモ鑑ミ卽答致兼ヌル旨答ヘ置ケル趣ナリ

二、[2]然ルニ本邦人ヲシテ漸次滿洲國稅法ニ事實上服從セシムル處置ヲ採ルコトハ同國財政ノ援助及日滿兩國人ノ公平負擔延テハ日滿關係ノ精神的融合ノ爲極メテ緊要事ナル次第ニシテ本稅ノ如ク既ニ默認シタル出產稅ト不可分ノ關係ニ在リ且稅率其ノ他ニ於テモ整備シタルモノヨリ之カ事實上ノ服從ヲ認ムルコト適切ナルト認ムルニ付テハ資本金額ニ付滿洲國側ノ勝手ナル査定ヲ防止スル爲稅捐局ニ於テ右査定ヲ爲ス場合ハ之カ決定ニ當リ豫メ所轄領事館ニ協議セシムルコトノ條件ノ下ニ本件稅法ヲ默認スルコトト致シ度シ本件當方意見決定ノ上ニ於テ必要ニ付貴見至急御回示相成度シ

尙本件營業稅ノ商埠地內課稅問題ニ付テハ諸般ノ關係上

更ニ考究ヲ要スヘキモ現ニ出産糧石税ニ付テハ商埠地ノミナラス満鐵附屬地内搬入ノモノニ付テモ之ヲ鐵道輸送スル場合ハ納付濟證ノ添附ヲ要スル等實際上之カ課税ヲ認メタル結果トモナリ又帝國臣民ノ關スル限リ事實上満洲全土開放セラレ居ル現狀ニ於テ此ノ種課税ニ付商埠地ト其ノ他ノ地域トヲ區別スル必要無カルヘシト思考ス右ノ點ニ付テモ併セテ貴見御回示アリ度シ

（欄外記入）

斯ル実際的措置ハ寧ロ可

編　注　『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第二巻第241文書。

527　昭和9年2月5日　在満州国菱刈大使より広田外務大臣宛（電報）

酒類および酒精に関する満州国課税の本邦人適用については黙認すべき旨意見具申

新　京　2月5日後発
本　省　2月5日後着

第一五〇號

一、(1)客月二十三日源田税務司長來館從來當國ニ於ケル酒類及酒精ニ關スル課税ハ各省區々ナリシヲ今般之ヲ統一スルト共ニ税率ヲ低下シ三月一日ヨリ實施スルコトトシタルニ付テハ日本國臣民モ等シク適用スルコトニ付當方ノ承認方申出テ來リタリ右税率及課税方法ハ別電在満領事宛（電報）合第五一（省略）號ノ通ナリ

（欄外記入）

二、右申出ニ對シ當時係官ニ於テ本件ハ更ニ攻究ノ上回答スヘキモ特ニ輸入品ニ付テハ既ニ一旦關税ヲ課シタルモノニ更ニ課税スルコトトナリ二重課税トナルヲ以テ除外方要求セル處煙草其ノ他ノ統税ニ付テモ一律課税シ居ル關係モアリ之ヲ除外シ難キモ日本酒ニ付テハ關税モ事實上高率ナルヲ以テ何等カ調節方法ヲ考慮スヘキヲ以テ本件課税默認方承認アリ度旨申述ヘタリ

三、(2)然ルニ附屬地外ニ於テ製造セラルル之等物品ニ付テハ明治廿九年ノ議定書第三條ニ基ク製造税ト認ムルヲ得ヘク税率及課税方法等ニ付テモ我方ニ協議シ來レル次第ニモアリ又附屬地外製造ノモノ及外國産品ニ付テモ煙草等ノ統税トノ關係及内國産品トノ均衡問題等ヲ考慮シ更ニ課

税標準トナルヘキ評價額モ極メテ低額ナルニモ鑑ミ満洲國財政援助ノ見地ヨリ一律默認シテ然ルヘキヤニ存セラルルモ何分ノ儀御回訓相煩度シ

尚本件ニ付各地領事ノ意見ヲ徵シタル處一、二領事ニ於テ輸入日本酒ニ付特殊ノ考慮ヲ希望シタル以外孰レモ本件課税默認ハ已ムヲ得サルヘシトノ回答ニ接シタリ御參考迄

（欄外記入）

寧ロ亜局ヲ主管トシテハ如何

528　昭和9年2月10日　在奉天蜂谷総領事より広田外務大臣宛（電報）

満州国による邦人への課税問題に対し我が方政府の方針を明確にすべき旨意見具申

奉　天　2月10日後発
本　省　2月10日後着

第三六號

本官發滿宛電報

第五〇號

在滿邦人ニ對スル課税問題ニ關シ最近滿洲國ヨリ例ヘハ客年大臣宛貴電第一四五三號及本年ニ於テ酒税糧石營業税賦課等段々申出アリ滿洲國財政當局トシテ財政收入ノ見地ヨリ内地人ニ對シテモ課税ヲ要求シ來ルコトハ無理カラサル所ナルモ其都度在留邦人側ハ之ヲ法權問題ニ關スル主義上ノ問題ト採算上ノ實際問題ノ（殊ニ當地ニ於テハ附屬地内外均衡問題アリ）兩方面ヨリ之ニ反對的態度ヲ執リ一方各地領事ノ意見ノ内ニモ邦人ニ對スル課税問題ニ付主義上ノ意見スラ一致シ居ラサル點アリ今後モ恐ラク滿洲國側ヨリ課税提案セラルル毎ニ同樣ノ事態ヲ繰返スヘク其結果ハ獨リ財政上ノ圓滑ヲ缺クト共ニ時ニ財政當局對在留邦人側ニ不必要ノ誤解ヲ招カシムルニ至ル虞アリ右ハ滿洲國發展ノ爲ニモ甚タ遺憾ナルノミナラス一方各地領事意見ノ相違ハ帝國政府方針ノ不徹底ヲモ意味スルコトトナリ面白カラスト思考ス就テハ此ノ際帝國政府トシテ例ヘハ(一)在滿邦人ニ對スル滿洲國側ノ内地課税ハ法權撤廢以前ニ於テモ適當ノ豫ヲ承認セストスルカ又ハ(二)法權撤廢以前ニ於テモ適當ノ豫告期間ヲ設クル等一定條件ノ下ニ當業者ノ採算ノ許ス限リ

之ヲ承認スル方針ナリトスルカ何レカノ方針ヲ明確ニ決定セラルルニ於テハ今後滿洲國側ニ於テ此ノ種ノ問題取扱上指針ヲ得テ便宜多カルヘク一方各地領事トシテモ課税問題ニ對スル主義上ノ方針一貫スルニ至リ又要スレハ在留邦人ニ對シ服税方更ニ積極的態度ヲ以テ臨ムコトヲ得在留邦人亦之ニ呼應スルニ至ルモノト存セラル然ラサル限リ其都度同樣ノ議論ヲ繰返シ延テハ安東電報ノ如ク在滿大使館ニ對スル誤解ヲスラ抱カシムルコトナキニ非サルヘキヤニ存セラル最近滿洲國側ノ課税提議頻繁タルニ顧ミ卑見御參考迄

大臣、哈爾賓、吉林、間島ヘ轉電セリ

529

昭和9年3月19日　在満州国菱刈大使より広田外務大臣宛(電報)

酒類および酒精に関する満州国課税の本邦人適用を黙認するに当たっての条件について

新京　3月19日後発
本省　3月19日後着

第四〇七號

本官發在滿各領事宛電報

合第一六三號

往電合第五〇號ニ關シ

各地領事ヨリノ意見ヲ徴シタルモノヲ附シ本省ニ請訓シタル處大要左記條件ノ下ニ默認方已ムヲ得サルヘキ旨回訓アリタルヲ以テ更ニ財政部側ト懇談ヲ遂ケ結局右ニ依リ默認方承諾ヲ得タルニ付右樣御含ミ置キアリタク實施期日ハ先方ヨリ確定通告次第電報ス

尚左記條件中五及六ノ點ハ特ニ我方ノ重視スル處ナルヲ以テ各種問題ノ發セサル樣豫メ貴地滿洲國側官憲ト充分打合セ置キ相成度シ

一、附屬地外工場ノ製品ニ付テモ附屬地內消費ニ當テラルル分ニハ課税セサルコト
二、輸入日本酒ニ對シテハ課税セサルコト
三、將來日本側ノ同意無クシテ税率並ニ課税標準等ノ變更ヲ爲ササルコト
四、本税納付ノ上ハ各種ノ附加税、地方税等名目ノ何タルヲ問ハス其ノ上一切ノ內地課税ヲ爲ササルコト
五、本税課徴ノ際ハ附屬地ノ行政權及治外法權ニ抵觸(セサル)樣注意スルコト

六、日本人本税不納ノ場合ト雖滿洲國側ニ於テ濫リニ强制手段ニ訴ヘ又ハ沒收等ヲ爲ササルコト
七、本税ノ實施ニハ法令ノ發布後少クトモ一ケ月ノ猶豫期間ヲ置クコト
八、印花票ハ一壜毎ニ使用スルモノノ外「ダース」入一箱用ノモノヲモ制定スル等充分融通性アルモノト爲スヘキコト

外務大臣ヘ轉電セリ

530

昭和9年4月7日　在満州国菱刈大使より広田外務大臣宛

満州国側より本邦人に対する同国地方税課税の承認方要請について

公機密第四八一號

昭和九年四月七日　(4月16日接受)

在滿洲國
特命全權大使　菱刈　隆(印)

外務大臣　廣田　弘毅殿

滿洲國地方税承認方ニ關スル外交部來翰寫送付ノ件

本件ニ關シ今般滿洲國側ヨリ同國建國以來日鮮人ニシテ滿洲國內ニ於テ居住營業土地商租ヲナスモノ日ニ增加シ來レルカ曩ニ武藤全權大使ト商租辦法ヲ協定シタル際ノ聲明モアリタルニ不拘現ニ彼等ハ此種納税ヲ肯セス爲ニ地方財收上及ヒ社會經濟上ニ重大ナル惡影響ヲ及ホシツツアリ目下滿洲國ニ於テハ鋭意舊税制ヲ整理中ナルカ右整理完了ニ至ル迄ノ過渡的辦法トシテ差當リ別紙「日鮮人民ヨリ徴收スル地方税目表」ニ依リ日鮮人ニ對シテ地方税ヲ賦課スルコトト致シ度ニ付日本側ニ於テモ前述ノ事情ヲ諒トセラレ之等ノ課税ヲ承認アリ度キ旨別添寫(省略)ノ通申越スト共ニ「各省市現行地方税目及ヒ税率表」並ニ「日鮮人民ヨリ徴收スル地方税目表」ヲ送付越セリ滿洲國側ニ於テハ財政確立ノ見地ヨリ客年來本邦人ニ對シ各種ノ徴税默認方屢次申出居リ曩ニ財政部ヨリ內交渉アリタル營業税其他約十三種ノ國税默認方ニ關シテハ客年十二月初電報ヲ以テ當方ノ意見ヲ具シ請訓ニ及ヒ置キタルカ之來(ママ)此種課税問題ノ根本的解決ハ治外法權撤度(廢カ)問題ト相俟ツテナサルヘキモノナルモ當國最近ノ狀況ヨリスルトキハ商租辦法ニ依リ本邦人ノ內地進出ヲ見ツツアル現狀ニ於テ速カニ過渡的措置ヲ講シ奥地邦人

ヲシテ我方ニ於テ公平妥當ト認ムル或ル程度ノ國稅及ヒ地方稅ヲ負擔セシムルハ必要且ツ已ムヲ得サルモノト思考セラレ又右ノ場合ニ於テモ從來ノ如キ默認方針ヲ避ケ取極又ハ交換公文等ニ依リ該邦人ニ對スル課稅カ條約上ノ根據ヲ有スルモノタラシムルコト本件ニ關スル各地領事累次ノ具申ニ徵スルモ極メテ肝要ト認メラルル次第ニシテ當方ニ於テハ右方針ニ依リ目下本件對策ヲ攻究スルト共ニ今回ノ滿洲國側申出ノ當否竝ニ各地方ノ實情等ヲ各領事ヲシテ調査セシメツツアルニ付何レ取纏メ報告スルコトト致スヘキモ本省ニ於カレテモ豫メ本件對策御攻究置相成樣致度外交部來翰寫送付旁々此段申進ス

送付書類

日鮮人民ヨリ徵收スル地方稅目表　一部

各省市現行稅目稅率明細表(省略)　五部

(別　紙)

徵收日鮮人民地方稅目表

各市縣現行稅目　――　新京市新設稅目

一、畝　捐(畝捐)　――　一、戶數捐(戶數割)

二、營業捐(舖捐)

三、房　捐

四、糧　捐

五、妓　捐

六、卓　捐

七、船　捐

八、屠宰捐

九、窰業捐

一〇、水利捐

二、不動產所得稅

三、土地增加稅

以上三種於大同三年方起由新京市公署預定徵收之

531

昭和9年4月24日　在滿州国菱刈大使より広田外務大臣宛(電報)

南滿州鉄道付屬地内に酒稅および煙草稅を創設したいとの関東庁意向について

別　電　四月二十四日発在滿州国菱刈大使より広田外務大臣宛第五九五号

右新稅創設に関する関東庁意向

新　京　4月24日後発

本　省　4月25日前着

第五九四號

本使發在滿各公館長宛電報合第一六三號ニ關シ

輸入日本酒課稅免除ノ件モ財政部側ニ交渉シタル處先方ハ我方主張ヲ容レタルモ關東州內生產品ニ付テハ特惠關稅ノ制度アルヲ以テ免稅セサルコトニ取計ヒ度旨主張シタルニ付爲念關東廳側ノ意嚮モ問合セタル處別電第五九五號ノ通リ回電アリタリ右ノ內附屬地ニ酒稅及煙草稅創設ノ件ハ附屬地ニ於ケル課稅權ノ問題トモ關係シ同地行政制度ニ對スル根本的ノ改革ト言フヘク外務省トシテ之ヲ承認スヘキヤ否ヤハ篤ト考慮ヲ要スル問題ト存セラル右爲念申添フ

奉天、安東、牛莊へ轉電セリ

(別　電)

新　京　4月24日後発

本　省　4月25日前着

第五九五號

關東長官發本使宛電報

第一五號

貴電第二六號ニ關シ

關東州及滿鐵附屬地內外ニ於ケル取引所ノ諸種ノ障害ヲ除去シ日滿人相互ノ便益ヲ計ル必要上當廳ニ於テモ近ク附屬地ニ適當ナル酒稅及煙草稅ヲ實施シ度キ意嚮ナリ

右實施ニ關シテハ其ノ課稅方法稅率等ニ付滿洲國トモ篤ト協議ヲ遂ケ共助的統制ヲ計ルノ要アルモノト思考スルニ付テハ本件ハ凡テ其ノ際考慮スヘキ旨滿洲國側ニ申入レ置カレ度シ

532

昭和9年6月27日　在滿州国菱刈大使より広田外務大臣宛(電報)

関東庁による付屬地内酒稅および煙草稅創設は同庁の付屬地進出の一端ともみられ対策を講ずる必要ある旨意見具申

新　京　6月27日後発

本　省　6月27日後着

第八三三號(極秘)

往[1]電第五九四號末段ニ關シ

(一)其ノ後關東廳ニ於テハ附屬地內ニ酒及煙草ノ消費稅ヲ實施スル爲着々計畫ヲ進メ來レルモノノ如ク二十六日關東

（欄外記入）

廳稅務課長當館ニ來訪シ係官ニ對シ關東廳ニ於テハ(イ)事變後附屬地ニ對スル同廳關係事務（特ニ警察官增加）ノ激增ニ伴フ支出補塡ノ爲及(ロ)現ニ滿洲國側ニ於テ實施シツツアル煙草統制竝ニ近ク日本側ノ了解ヲ得テ實施セントシツツアル酒類消費稅ニ關シ附屬地內外ノ均衡ヲ保チ以テ附屬地カ滿洲國ニ對スル密輸入若ハ脫稅ノ策源地ナリトノ從來ノ非難ヲ緩和センカ爲近ク附屬地內ニ酒及煙草ノ消費稅ヲ實施シ度キ意嚮ナルカ右ニ對スル大使館側ノ內意ヲ承リ度シト申出タルニ依リ係官ヨリ右計畫ニ關シテハ拓務省其ノ他關係方面ト既ニ打合濟ナリヤト尋ネタル處

拓務省ニ對シテハ過般關東廳財務局長上京ノ際內諾ヲ得居リ又關東軍特務部ノ內意ヲ確メタルモ別段異存ナキ模樣ニテ具體的法案作成ノ上更ニ同部ト協議スルコトトナレリト述ヘタルニ依リ（特務部側ニ確カメタル處關東廳側ニ對シテハ絕對ニ贊否ノ意見ヲ表示シタルコトナク主任官ノ私見トシテハ寧ロ反對ナル旨洩シタリ）係官ヨリ個人ノ意見ナリト斷リタル上附屬地內ニ租稅法令ヲ施行スルモ治外法權ヲ有スル英米等ノ國民ヲ强制シ得ルヤ否ヤニ付テハ條約ノ解釋上疑問アリ且今日ノ事態ニ於テハ關東廳カ斯ル法令ヲ附屬地內ニ施行スルコトハ對外關係上甚タ不得策ト思考スル旨述ヘタルニ先方ニ於テハ先年滿鐵ノ附屬地內課金ニ付米國人トノ間ニ問題ヲ惹起シタル際外務省側ノ意見ハ課稅其ノモノニ付テハ異存ナク處罰規定等ノ適用ニ付英米人ニ對シテ紛爭ヲ起ササル樣手心ヲ加フヘシトノ御趣旨ナリシコト並ニ今回計畫ノ酒煙草稅ハ直接稅ニ非サル消費稅ナルコトトニ依リ關東廳側ニ於テハ條約上差支ナシト思考シ居ル旨ヲ述ヘタル趣ナリ

(二)本件關東廳側ノ申出ヲ容認スルコトハ自然附屬地內ニ於ケル同廳ノ權限ヲ擴大スルコトトナルヘク右ハ治外法權撤廢ノ空氣ニ逆行シ且附屬地ノ處理方ニ關スル本省ノ御方針ニ反スルモノト認メラルルニ付當方トシテハ今後トモ右ノ趣旨ヲ體シ然ルヘク應酬スヘキモ稅務課長ノ說明振リ等ニ徵スルニ本件計畫ニ付テハ關東廳側ニ於テ附屬地進出ノ一端トシテ相當根强キ意嚮ヲ有スルモノノ如クナルニ付當方ノ反對ニ拘ラス早晚中央ノ問題トセラルヘク旁豫メ充分對策ヲ講シ置カルルコト必要ナルヤニ思考

セラル

（欄外記入）

急對策ノコト

533　昭和9年7月10日　在ハルビン森島總領事より広田外務大臣宛（電報）

本邦人がハルビン市稅を從順に納入しつつある現狀について

ハルビン　7月10日後発
本　省　7月10日後着

第四〇三號

本官發滿宛電報

第四八四號

哈爾賓特別市ニ於ケル市稅納入問題ハ一九一四年英露協定以來ノ沿革アル問題ニシテ昭和三年八木總領事並ニ東省特別區行政長官張煥相トノ間ニ暫行辨法調印ノ次第モアリ客年七月一日特別市成立ヲ機會ニ根本的ニ解決シ置クヲ適當ト認メタルヲ以テ客年本官呂市長間ニ從來ノ滯納稅ノ減額支拂ニ付協定ヲ遂クルト共ニ將來ニ於ケル邦人ノ市稅納入ニ關シテハ本官ニ於テ出來得ル限リノ便宜ヲ與フヘキ旨約シタル次第アリタル處其ノ後大同元年六月三十日以前ノ土地稅並ニ營業稅ハ之ヲ免除スヘシトノ大同元年敎令カ北滿特別區ニモ適用セラルヘキヤ否ヤニ關シ市當局ト滿洲國中央部トノ間ニ問題ヲ生シタル爲市當局ニ於テモ最近迄稅金徵收ノ運ニ至ラサリキ然ルニ其ノ後右敎令ハ各省ト同樣特別區ニモ適用セラルルコトトナリタル爲本年五月更ニ本官ト呂市長トノ間ニ追加協定ヲ締結シ滯納稅ハ昭和七年七月一日以降八年六月三十日迄一箇年分ニ限定、四期ニ分納ノコトニ決定シタルニ依リ市當局ニ於テハ六月七日ヨリ前記滯納稅第一期分並ニ昭和八年七月一日以降本年六月三十日ニ至ル市稅合計約國幣三萬六千圓ノ徵收ヲ開始セル處六月末日迄ニ於ケル邦人ノ納稅額三萬圓以上ニ上レリ（民會ニ對スル市ノ補助金ハ大体四、五千圓ト見込ミ居ルモ追テ市長トノ間ニ具体的ニ決定ノ筈）

右ハ一面ニ於テ當地方邦人ノ財政狀態良好ナルヲ示スト共ニ當地方邦人カ日滿兩國ノ現狀ニ鑑ミ條約上ノ見地ヲ離レ納稅ノ道義的責任ヲ自覺シ居レルコト、英露協定以來ノ沿

革的理由アルコト、商工會議所、赤十字病院敷地ノ無償譲渡等市カ邦人側ニ多大ノ好意ヲ示シ居ルコト等ニ依ルモノナルカ他面當館トシテハ數次ニ亘リ邦人有力者ヲ招致シ了解ヲ求メタル外新聞紙ヲ通シ輿論ノ指導ニ努メ又邦人ヲシテ納税上ノ不便ヲ感セシメサルカ爲市當局ヲシテ邦人徴税吏ヲ各戸ニ派シ集金スルコト、金圓ニ依ル納税ヲ認ムルコト、納税ニ依ル利子ノ徴收等ヲ差控フルコト等ノ實際的措置ヲ講セシメタルニ依ル處多シト認メラル課税問題御攻究中ニテ將來當地以外ニ於テモ問題具体化スヘキコトアルヘシト思考スルニ付御參考迄特ニ電報ス(委細郵報)

新京ヘ轉報アリタシ

大臣、在滿各領事ヘ轉電セリ

534　昭和9年7月14日　在奉天蜂谷総領事より　広田外務大臣宛

満州国の付属地課税問題に対する満鉄意向について

機密第六四六號　(接受日不明)

昭和九年七月十四日

在奉天　總領事　蜂谷　輝雄

外務大臣　廣田　弘毅殿

附屬地ニ對スル滿洲國課税問題ト滿鐵側意嚮ニ關スル件

滿洲國治外法權撤廢ノ順序トシテ先ツ課税權ヨリ承認ヲ與フル事而シテ此場合ニハ附屬地内ニ對スル取扱ノ均衡ヲ保持スル見地ヨリ附屬地ニ對シテモ何等カノ方法ニ依リ滿洲國ノ課税ヲ承認スル事モ一案ナル可キ處過日中西滿鐵地方部長來訪ノ砌滿洲國ノ附屬地課税問題ニ關シ左ノ如キ意見ヲ開陳スル所アリタリ

滿鐵ハ現ニ附屬地内地方行政ヲ行フ爲メ所謂戸別割及雜種割(例ハ車馬税、遊興税、屠殺税)ヲ賦課シ居ル次第ナルカ滿洲國ノ課税ヲ附屬地ニ承認セラルル事ハ滿鐵カ地方行政ヲ擔當シ居ル關係上如何カト思考ス寧ロ酒、煙草等ノ消費税ヲモ前記雜種割ノ一部ニ加ヘ滿鐵ニ於テ徴收スル事トシ此中附屬地外ニ消費セラルル部分ニ該當スル税額ヲ滿洲國側ニ納付ス(但シ其ノ代リ附屬地外ヨリ附屬地内ニ入リ來ル部分ニ對シテハ滿洲國側ヨリ滿鐵ニ納

付セシメラレ度)ル事ト致度之最モ公平ナル可シ一説ニハ關東廳カ此種消費税賦課ヲ研究中ナリトノ事ナルモ此如キハ全ク論據ナキ處ト云フ可シ

仍テ雜種割ノ中ニ前記消費税ヲモ含マシムル事ニ付テハ研究ノ餘地アル旨回答スルト共ニ假リニ右ヲ承認スルトスルモ目下附屬地行政權解消問題行ハレ居ル今日滿鐵ニ新税徴收ヲ承認スル事ハ大勢ニ逆行スル嫌ナキニ非サル可キ旨述ヘタル處

滿鐵トシテハ附屬地行政權撤廢ニ主義上反對スルモノニ非ス只急速ニ實現スル事困難ナル可キヲ以テ先ツ以テ附屬地内外ノ施設其他ニ就キ附屬地ヲ撤廢シタルト同樣ノ關係ニ置ク樣努力スル事捷徑ト考ヘ居リ卽チ例ハ地方行政中水道事業ニ付テハ日滿合同ノ公企業ヲ設立シテ之ヲシテ行ハシメ道路衞生施設ニ付テハ共同委員會ヲ設ケテ同委員會ノ決定スル所ニ據リテ日滿双方ニ於テ實施シ或ハ又學校教育ニ付テハ双互(相カ)的ニ委託經營ノ方法(例ハ附屬地内滿人中附屬地外滿人學校ニ就學スルモノニ付テハ滿鐵ヨリ推薦スルモノニ對シ滿鐵ヨリ奉天市側ニ委託料ヲ支拂方法ヲ認ムルカ如シ)ヲ執ル事トセハ事實上問題解決セラル可ク果シテ然ラハ其時ニ於テ行政權ヲ解消スルモ差支ナキニ至ラン云々

ト開陳スル所アリタリ

同部長ノ意見ニ付テハ尚研究ヲ要ス可キ點アルモ滿鐵側ノ意嚮トシテ參考トナルヘキ點有之偶々過日來訪ノ栗山局長ヨリ御話ノ次第モアリ旁々右御參考迄報告ス

本信寫送附先　大使　營口　安東

535　昭和9年7月17日　在満州国菱刈大使より　広田外務大臣宛

邦人への満州国課税を承認する日満間暫定協定案につき在満各館の意見照会について

公機密第一二三四號　(7月27日接受)

昭和九年七月十七日

在滿洲國　特命全權大使　菱刈　隆〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

昭和九年七月十七日附在滿各公館長宛往信寫送付

合機密第六六二號

件　名

一、滿洲國ノ本邦人ニ對スル課税承認方ニ關シ暫定協定締結ノ件

合機密第六六二號
昭和九年七月十七日

在滿洲國
特命全權大使　菱刈　隆

滿洲國ノ本邦人ニ對スル課税承認方ニ關シ暫定協定締結ノ件

滿洲國政府ヨリ在留本邦人ニ對シ同國ノ國税及地方税ノ課徴默認方累次申入レ來リタル次第ハ客年往電合第六五八號及本年四月七日附合機密第二六一號往信其他ヲ以テ其ノ都度報告旁々貴見ヲ徴シ置キタル處本件在留本邦人ニ對スル滿洲國ノ課税問題ニ關シテハ從來各館ヨリノ具申竝去ル五月ノ領事會議ニ於ケル領事各位ノ報告論議等ニ徴スルニ所謂從來ノ默認方針ハ之ヲ避ケ速カニ協定又ハ交換公文等ニ依リ滿洲國ノ課税權ヲ條約上ノ根據ヲ有スルモノタラシムルコト刻下同國内ノ狀況ニ鑑ミ緊急ノ措置ト思考セラレタルヲ以テ右方針ノ下ニ本問題ノ處理方考究ノ結果今般當館試案トシテ別紙附屬ノ通「暫定協定要綱」ヲ作成セリ就テハ貴館(管カ)下各地ノ狀況ニ照シ

(イ)右暫定協定要綱ニ依リ日滿間ニ協定ヲ締結シ差支無キヤ

(ロ)他ニ追加スヘキ事項アラハ該事項

(ハ)承認セラルヘキ國税及地方税ノ種類及税率ノ適否竝他ニ追加ヲ要スルモノアリヤ否ヤ

(二)右國税及地方税ノ承認ニ依ル本邦人ノ負擔豫想額

其他參考トナル可キ事項ニ付何分ノ貴見至急御回示相成樣致度此段申進ス

本信送付先、在滿各公館長
本信寫送付先、外務大臣
附屬「日本國及滿洲國間暫定協定要綱」

(附屬別紙)

日本國及滿洲國間暫定協定要綱

(一)大正四年ノ「南滿洲及東部内蒙古ニ關スル條約」第二條及第三條ヲ滿洲國ノ全領域ニ擴張適用スルコトトシ以テ本邦人カ全滿ニ於テ自由ニ(イ)往來居住シ(ロ)各種ノ業務ニ從事シ且(ハ)商租權ヲ行使シ得ルコトトナスコト

(二)(イ)右ニ對スル對償トシテ一定ノ條件ニ依リ營業税(約二十七種)消費税(十三種)及不動産ニ關スル税金(三種)(共ニ國税及地方税ヲ合セ)ヲ本邦人ニ賦課スルコトヲ承認スルコト(「日本國國民ニ課徴セラルヘキ滿洲國ノ國税及地方税目、課税標準及税率表」(省略)參照)

(ロ)前項ノ各種租税ニ關スル課税法規ハ之ヲ日本人ニ適用スルニ先チ日本國全權大使ノ承認ヲ經ヘキコト竝ニ前記諸税ノ税目、課税標準及税率ハ日本國全權大使ノ承認ヲ經ルニ非レハ之ヲ變更スル能ハサルコト

(三)本邦人ノ現ニ有スル治外法權ト前記滿洲國ノ本邦人ニ對スル課税權トヲ調和センカ爲大要左記各項ノ規定ヲ設クルコト

(イ)營業税ニ關シテハ原則トシテ領事官ノ必要ト認ムル場所ニ該領事官ノ指名スル本邦人ヨリ成ル營業税調査委員會ヲ設ケシメ右ヲシテ税額ノ査定ヲ爲サシメ滿洲國税務當局ハ右査定ヲ尊重スルコト及若シ税務當局ニ於テ右査定ニ疑義ヲ有シ本邦人ノ帳簿書類又ハ店舗、工場、倉庫等ヲ調査點閲スルノ必要ヲ認メタルトキハ日本國領事官ニ申出スヘク右申出アリタルトキハ日本領事官ニ於テ滿洲國當該官憲立合ノ下ニ之ヲ行フヘキコト

(ロ)消費税ニ關シテハ其ノ税額ノ決定ハ原則トシテ税務當局ノ諮問ニ對スル本邦人ノ答申ニ基キ該當局ニ於テ之ヲ決定スルコトトシ若シ税務當局ニ於テ本邦人ノ帳簿書類又ハ店舗、工場、倉庫等ヲ調査、點閲スルノ必要ヲ認メタルトキハ前記(イ)ト同樣ノ手續ヲ執ルヘキコト

(ハ)税額、課税手續其他課税ニ關スル本邦人ト税務當局トノ爭ヲ裁定スル爲日滿官憲ニ依リ組織セラルル共同審査委員會ヲ設クルコト

(二)課税法規違反ノ故ヲ以テ本邦人ヲ處罰(罰金、沒收ニ限リ体刑ハ之ヲ認メス)セントスル場合ニハ滿洲國税務當局ヨリ右ノ旨日本國領事官ニ申出テ我カ領事裁判所ニ於テ之ヲ審理判決及執行スヘキコト

(ホ)本邦人ノ租税滯納ニ對スル强制執行ハ滿洲國税務當局ノ申出ニ依リ日本國領事官代ツテ執行スヘキコト

(四)滿鐵附屬地及商埠地ニ對シテモ滿洲國ノ課税權ヲ承認スヘキコト

但シ附屬地ニ對スル課税ニ關シテハ之カ徴收ヲ滿鐵ニ委任シ且ツ右徴收金額ハ滿鐵カ附屬地施設ニ要スル經費ノ限度ニ於テ日本國全權大使ト滿洲國政府トノ協定スル所ニ從ヒ年々之ヲ滿鐵ニ交付スルコト

又滿洲國政府ハ日本人居留民團体其ノ他適當ノ機關ニ對シ年々日本國全權大使ト滿洲國政府ト協定スル一定ノ金額ヲ交付スルコト

536

昭和9年7月27日　在吉林森岡総領事より広田外務大臣宛

滿州国課税に関する日満間暫定協定案に関し有力居留民および特務機関長の意見聴取について

公機密第四八〇號　（8月6日接受）

昭和九年七月二十七日

在吉林

總領事　森岡　正平〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

滿洲國ノ本邦人ニ對スル課税暫定協定締結方ニ關シ回答ノ件

本件ニ關スル菱刈大使宛七月二十七日附機密第四二三號公信寫御參考迄ニ送付ス

機密第四二三號

昭和九年七月二十七日

在吉林

總領事　森岡　正平

在滿洲國

特命全權大使　菱刈　隆殿

滿洲國ノ本邦人ニ對スル課税暫定協定締結方ニ關シ回答ノ件

七月十七日附合機密第六六二號貴信ヲ以テ滿洲國ノ本邦人ニ對スル課税暫定協定締結方ニ關シ御申越ノ趣敬承然ル處貴信中ニハ本件課税率ハ日滿人平等負擔ナリトノ明白ナル文句ヲ缺ク爲從來ノ經緯上實ハ日本人ノミニ對スル過渡的辦法ニ係リ一般滿人ニ對スル税率ヨリモ低減協定セラル、御方針ト誤解シ居リタル處過日本官貴地出張ノ際右協定成立ノ曉ニハ日滿人一律同率ヲ課セラル、御趣旨ナリトノ事ヲ承知シタルニ付歸任後其ノ含ミヲ以テ御送付ノ税率表ヲ

鈴木吉林商工會長並木下共榮起業會社吉林支配人ニ内示シ絶對他言セサルコトヲ條件トシテ右ニ對スル意見ヲ徴シタル處

(一)今日ノ事態ニ於テ日本人ノミカ課税ニ服セサルコトハ不穩當ニモアリ國策上必要ナラハ中流以上ノ日商カ滿洲國人ト同一率ノ課税ニ服スルコトモ止ムヲ得サルヘシ

(二)大使館試案ノ課税標準及税率表ハ吉林ニ關スル限リ大体ニ於テ苦痛ヲ感セサルヤニ認メラル、モ在滿多數邦人ノ重要營業タル質屋營業ノ税目ヲ特ニ掲ケスシテ「其他」ノ内ニ含メアルハ他トノ權衡ヲ缺クコトナキヤ

(三)小商人卽一ケ月純益百圓位ノ疊屋、風呂屋、豆腐屋、菓子屋、理髪屋及小雜貨商等カ滿洲國人ト同一率ノ課税ニ服スル時ハ生活程度ノ關係上數年ヲ出テスシテ滿人ニ壓倒セラレ自滅スルコト疑ナク現ニ事變前滿洲各地ニ於テ此種ノ日本小商人ハ殆ト全部彼等ノ弟子タリシ支那人同業者ニ職業ヲ奪ハレタル前例モアリ理論上ハ不合理ナランモ滿洲特種ノ狀態ニ鑑ミ實際上社會的ニ相當問題化スル懸念アルヲ以テ一ケ年賣上高四千圓(小賣商ノ利益ヲ三割ト見テ一ケ年ノ利益千二百圓)位以下ノ日商ニ對シテハ例外トシテ當分免税ノ特典ヲ與フル必要アリヤニ認メラル

トノ回答ヲ得タルカ前記第三ノ點ニ關シ爲念更ニ奥特務機關長ノ意見ヲ確メタルニ滿洲國ハ日本ノ生命線タル關係上他ノ諸外國ニ於ケル日本貿易市場ト全然趣ヲ異ニスルヲ以テ通商貿易上ノ利害及打算ノミニテ律シ難キ事情アリ殊ニ滿洲事件戰鬪ニ參加シタル兵員ハ我中流以下ノ家庭ノ子弟多ク從テ軍トシテモ國民的感情ヲモ考量シ隨分困難トハ知リツ、モ現ニ熱心ニ農業移民計畫サヘ實行シツ、アル程ナレハ本件課税協定ニ際シテハ正業ニ從事スル下層日本人ニ限リ當分免税若クハ滿人ニ比シ遙ニ低廉ナル課税ノ恩典ヲ與ヘ滿人トノ競爭ニ勝タシメ早キニ及ンテ一人ニテモ多ク日本人ヲ滿洲ニ植付クル樣外務省側ノ御配慮ヲ希望シテ已マストノコトニテ右ハ鈴木、木下兩氏ノ意見ト期セスシテ符合スルノミナラス本官ノ意見モ亦過日貴地出張ノ節面陳ノ通之ト全然同樣ナルニ付テハ原則上御來示ノ試案要綱ニ基キ暫定協定ヲ締結セラル、コトニ大体異存ナキモ例外トシテ一ケ年賣上高四五千圓以下ノ日本小商人ニ對シテハ特ニ免税取極方御配慮ニ預度尚右ニ關聯シ參考上御來示ノ税

率ヲ基礎トシテ吉林在住日商ノ總負擔金額ヲ計算セル處木材商負擔一年約四十萬圓、輸入雜貨商負擔一年約三千圓、運送業者負擔一年約七千圓、料理屋及宿屋負擔一年約四千圓、其他ヲ合シ計約四十二萬圓トナリ向フ二三年後鐵道家屋等各種建設工事一段落ノ曉木税ノ徴收激減スル場合ニ於テモ日本人側ノ一年税金負擔額ハ二十萬圓ヲ下ラサルヘク結局現在ノ民會費ノ五倍乃至十倍ニ達スル見込ナルニ付テハ日本人ノ教育及ヒ衛生費用ハ是非共全部滿洲國政府ノ負擔トシ之ヲ滿洲國側税務署ヨリ當總領事館又ハ吉林日本居留民會ヘ交付セシムル樣取決メヲナスコト絶對ニ必要ト存ス

右回報ス

追テ本件ハ極メテ機微ナル事情アリテ多方面ニ相談スルコトハ面白カラスト認メ右以外ノ人ヘノ内相談ハ之ヲ差控ヘタルニ付其御含ニテ他地方各領事ノ意見ト御對照ノ上可然御取計相成度シ

本信寫送附先

外務大臣

在滿各總領事及領事

537　昭和9年8月23日　在奉天蜂谷総領事より広田外務大臣宛（電報）

新聞に漏洩した満州国課税に関する暫定協定案に対し奉天商工会議所などが反対意向表明について

奉　天　8月23日後発

本　省　8月23日後着

第三二九號（極秘扱）

本[1]官發滿宛電報

第三四九號

往電第三四〇號ニ關シ（邦人ニ對スル課税問題）

本件課税案カ一度紙上ニ報道セラルルヤ御承知ノ通リ各方面ニ多大ノ衝動ヲ與ヘ偶々在滿機構問題ニ關聯シ附屬地行政權撤廢反對運動ト合流シ囂々タル反對論ヲ捲起シタル處二十一日奉天商工會議所石田、向坊ト會見ノ際本官ヨリ本件ハ既ニ紙上ニモ訂正的ニ發表セラレ居ル通リ未タ大使館係官ノ一私案程度ニ過キス先般滿鐵、民會等ノ公費係ヲシテ技術的方面ヨリ本案ノ可否及其ノ實收額等ノ内調査ヲ求メ居リタルモノニシテ之ニ依リ數字的計算ヲ得タル上改メテ商議幹部ト本案ノ當否ヲ内協議センカト考ヘ居リタル次

第ニテ未タ俄ニ實行ニ移サントスルモノニアラサレハ勿論大使館ノ決定案ニモアラス然ルニ今回偶々本案カ他ノ政治問題ト關聯シテ紙上ニ漏洩セラレタル爲不必要ナル誤解ト衝動ヲ與ヘタルモノニ付誤解無キヲ期セラレ度旨及本案ニ對スル説明ヲ加ヘ旁懇談シタル處兩會頭トモニ事情ヲ充分了解シタルカ

唯[2]會議所側トシテハ假令本案カ私案ナリト雖既ニ世上ニ發表セラレ當業者各方面ヨリ頻々タル問合モアリ世上論議ノ焦點トナリタル以上商議トシテモ之ニ對シ一應ノ態度ヲ表明シ置カサルヘカラサルニ至レルニ付テハ兩三日中適當ノ機會ニ「本案ハ何等決定案ニアラサルコトヲ承知スルモ萬一斯ノ如キ私案カ實行セラルルコトニ對シテハ其ノ在滿邦人ニ與フル打擊ノ甚大ナルニ顧ミ之カ實行ニ反對ナル」旨ヲ聲明スルコトアルヘキニ付了解セラレ度旨内談アリタルヲ以テ其ノ程度ナラハ已ムヲ得サルヘキ旨回答シ置キタリ尚二十一日當地有力ナル實業代表ヨリ成ル月曜會（三井、三菱、鮮銀、正金、大倉、東拓、大阪商船各支店長）ヲ招キ右ト同樣ノ説明ヲ爲シ置キ何レモ了解シタルカ唯彼等モ萬一本件課税案實行ノ曉ニハ是等大會社ト雖苦痛甚大ナル旨異口同音ニ申述ヘ居タリ

大臣ヘ轉電セリ

538　昭和9年8月23日　在奉天蜂谷総領事より広田外務大臣宛（電報）

新聞漏洩の満州国課税に関する暫定協定案は一係官の試案に過ぎない旨日本側新聞支局長へ説明について

奉　天　8月23日後発

本　省　8月23日後着

第三三二號

本[1]官發滿宛電報

第三五二號

附屬地課税問題ノ反響ニ顧ミ二十三日當地ニ於ケル大每、大朝、國通、電通、大連新聞、滿日各支局長ト會見ノ際所謂大使館案ナルモノハ其ノ税率、課税標準、課税種類其ノ地（他カ）課税承認ノ場合ノ交換條件等何レモ一係官ノ私案程度ノモノニシテ殊ニ税率ハ當業者保護ノ見地ヨリ最高税率ヲ示シタルモノニテ實際ノ適用率ハ素ヨリ之以下ノモノニテ其

ノ他凡ユル點ニ於テ在滿邦人ノ經濟的發展ヲ擁護スルコトヲ考慮ニ入レ居ルモノナルカ偶々其ノ際高税率ノミカ報道セラレ且課税標準ノ如キモ賣上高（賣上高トスヘキヤ收益額トスヘキヤノ點モ未タ何等決定セルモノニ非スト説明シ置キタリ）トシテ計算セラレタル爲非常ナル負擔ナルカ如ク傳ヘラレタル次第ナルカ事實ハ未タ附屬地ニ課税スルヤ否ヤスラモ決定シ居ラサル位ナリト懇切ニ説明シタル處大體了解シタルカ

記者[(2)]側ヨリノ質問中ニ本課税率ニ依ル結果ハ恰モ附屬地ニ對スル滿鐵側ノ行政費（但シ事業費ヲ除ク）年額ニ近似スル徴税額ヲ得ラルルコトトナリ居ルニ顧ミ一部論者中ニハ本案ハ單ナル私案ニアラスシテ相當決定的ノ案ト認メ從テ之ニ反對ヲナシ居ル者アリト述ヘタル者アリ又附屬地內營業税ヲ課スルコトハ現在ノ滿鐵公費カ勤勞所得ヲ主トシテ營業者ニ輕キ極メテ杜撰ナルモノナルヲ以テ其ノ率ニシテ合理的ナラハ當然ナランモ唯一方ニ行政權ヲ存續セシメツツ他方課税權ヲ承認セントスルカ如キハ甚タシキ論理ノ矛盾タルヲ免レストナス者アリタリ尙本官ヨリノ説明ニ對シ將來奉天市政ノ中ニ市長其ノ他多數ノ日本人市政參與者ヲ入ルルコトニ依リ奉天市ト附屬地ヲ合流セシムルコトニ付テハ何人モ異論ナカルヘシト述ヘ居リタリ御參考迄

大臣ニ轉電セリ

539 昭和9年9月19日 在奉天蜂谷総領事より広田外務大臣宛

邦人への満州国課税問題に関し各方面に意見聴取を行った野添臨時嘱託の報告書送付について

機密第八六〇號　（9月27日接受）

昭和九年九月十九日

在奉天
總領事　蜂谷　輝雄［印］

外務大臣　廣田　弘毅殿

昭和九年九月十九日附
機密第八二六號　在滿大使宛往信寫送附

件　名

一、課税問題ニ關スル野添臨時囑託ノ報告書送附ノ件

機密第八二六號

昭和九年九月十九日

在奉天
總領事　蜂谷　輝雄

在滿洲國
特命全權大使　菱刈　隆殿

課税問題ニ關スル野添臨時囑託ノ報告書送付ノ件

過般在滿邦人ニ對スル課税問題ニ關シ所謂大使館試案カ新聞紙ニ漏洩セラレ在留邦人ニ衝撃ヲ與ヘタルハ勿論、大連商工會議所等ハ全滿商議聯合會等ヲ開催シ反對輿論ヲ煽リ延テハ之ヲ行政機構變改問題ニ利用セントスル形勢ヲ馴致シタル事情ニ付テハ當時報告ノ通リナル處一方當館ニ於テハ前奉天商工會議所野添理事ヲ臨時囑託トシ沿線各地ニ於ケル實業團体等ノ有力者ニ對シ其眞相ヲ説明シ併セテ彼等ノ意見ヲ徴サシメタルカ同人歸來別紙寫ノ通リ報告アリタルニ付右御參考迄送附ス

尙其後各地共屢次報告ノ通リ漸次問題ノ眞相ヲ知悉スルニ至リ何レモ靜觀ノ態度ヲ持シ居レリ

本信寫送附先　外務大臣

（別　紙）

報　告　書

昭和九年九月一日

在奉天總領事館
臨時囑託　野添　孝生

在奉天
總領事　蜂谷　輝雄殿

命ヲ受ケ昭和九年八月廿五日ヨリ同年九月一日ニ至ル間課税問題ニ付營口、鞍山、遼陽、撫順、安東、鐵嶺、開原、四平街、新京ノ九ケ所ニ出張シ各地ノ有力者ト懇談ヲ遂ケタル概況左記ノ通リニ有之此段及報告候也

一、當方ノ述ヘタル要項

(イ)大使館ノ試案ナルモノハ單ニ新聞紙上ニ漏洩シタル案ノミニ止マラス他ニ幾多ノ研究試案ヲ有セル事

(ロ)卽チ附屬地行政權返還前ニ於テ附屬地ニ滿洲國ノ課税ヲ容認シ得ラルルヤノ點

(ハ)治外法權ノ一部タル課税權ノミヲ放棄シ得ルヤノ點

(ニ)徴税機關、徴税方法、課税標準、課税率ノ點

(ホ)大使館ノ試案ナルモノハ附屬地外ノ課税ヲ假リニ容認

ストセハ附屬地内トノ課税均衡上茲ニ公正妥當ノ方策ヲ考究スルニ至リタルコト

(ヘ)漏洩シタル課税率カ高率ナル點ハ既往ニ於ケル政權者カ無限ニ内國税率ヲ高率ニシタル點ニ稽ヘ又滿洲國財政ノ將來等ニ深ク考慮シタル結果寧ロ我方ヨリ最高限度ノ税率ヲ提示シ置クコトヲ有利ナリト認メタル點

(ト)大使館並ニ總領事館ハ徵税機關ヲ有セサル爲メ試案ヲ地方事務所、民會、税務監督署ニ示シ公正妥當ノ案トスヘク研究ヲ依頼シタルトコロ茲ニ端シナクモ幾多ノ研究試案中ヨリ最高限度ノ税率カ漏洩シタル點

(チ)各地ハ現在枯尾花ヲ幽靈ナリトシテ騒キ居ルカノ感アリ現實ヲ直視セス徒ラニ騒クコトハ滿洲國指導ノ任ニアル我國民ノ考慮ヲ要スル點

(リ)總領事館トシテハ實行ニ移ス以前ニ各地ノ有力團体ニ諮問スル意思アル點

以上ニ對シ各地有力者何レモ其ノ意ノアルトコロヲ諒解セリ今試ミニ各地有力者ノ當方ニ述ヘタル意見ヲ示セハ左記ノ如シ

一、營口　松本地方委員、阪井、我孫子兩商工會議所議員　日下商議理事

(イ)治廢、行政權返還ハ國策トシテ決行サルル以上在住民トシテ異議ヲ挾ム餘地ナシト雖モ今日ニ於テ附屬地内ニ滿洲國ノ課税權ヲ容認シ然モ傳フル如キ高率ナル課税ニ服スルコトハ絶對ニ反對ナリ

(ロ)課税ハ滿洲人ト日本人トノ生活程度ノ差異ニ稽ヘ邦人ニハ地方税ノ性質ヲ有スル單一税(所得税ニシタシ)ヲ當分賦課セラレタキコト

但シ行政權返還前ニ於テハ不可ナルコト又行政權返還迄ハ附屬地外居住ノ邦人モ現狀ノ儘推移スルノ方針ニ出ラレタシ

(ハ)商工會議所トシテハ今次ノ問題ニヨリ市民大會等ノ發起ハナサス地方委員會トシテハ愼重ニ考慮ノ上大石橋側ノ大會慫慂ニ贊否ヲ決シタキコト

(ニ)行政機構ノ變革問題ハ國策ニ基クモノナルヲ以テ之カ是非ニ就テハ意見ナシ

三、鞍　山　長井地方委員議長、中山地方委員、森地方事務所長、神田實業協會議員、植田同議員、藤沼實業協會理事

(イ)滿洲國ニ資本ヲ進出セシムルニ現在既ニ幾多ノ不利ト缺陷トヲ有スルニ拘ラス更ニ附屬地内ニモ行政權返還前ニ然モ高率ナル課税ヲナス如キコトアラムカ遂ニ資本ハ滿洲ニ來ラス産業開發ニ一大支障ヲ來スコト必然ナリ

(ロ)今回大使館ノ私案カ漏洩スルニ至リタルハ行政機構ノ變改ニヨル拓務省系ノ暴露戰術ニヨルモノト認ム

(ハ)鞍山トシテハ今後如何ナル態度ニ出ツルカハ不明ナルモ事ノ眞相ヲ知悉シタルコトハ今後ニ處スル上ニ裨益スルトコロ尠ナシトセス

(ニ)滿洲國日系官吏ニ對シ如何ニ在滿邦人カ課税問題ニ敏感ナルカヲ示ス爲ニハ事ノ眞相ヲ辨ヘタ上ハ寧ロ多少聲ヲ大ニスル方將來有利ナラン

三、遼　陽　玉木滿紡專務、渡邊地方委員議長、中村實業協會長

(イ)眞相承知ノ上ハ愼重ナル態度ヲ持シタシ

(ロ)大使館ノ私案漏洩ハ奉天地方事務所勸業係カ奉天警察署ニ情報トシテ洩シ警察ハ茲ニ關東廳ト打合セノ上二位一體制ヲ不利ニ陷ラシムル爲新聞記者ニ漏洩セルモノト觀察ス

(ハ)滿洲ニテハ課税ヲ成ル可ク單一税ニセラレタキコト

四、撫　順　瀨戸地方委員議長、田中實業協會長、森山實業協會理事

(イ)眞相判明シタル上ハ靜觀主義ニ出タシ從テ撫順トシテ假リニ市民大會等ヲ開クコトアリト雖モ吾等ハ參加セス

(ロ)課税問題ハ之カ實行ニ際シ必ス各地ノ有力團体ニ諮問セラレタキコト

(ハ)拓務省カ州外ヨリ手ヲ引クコトニ贊成又同時ニ附屬地行政ヲ滿洲國ニ返還セサレハ滿洲ノ産業開發ハ進展セサルモノト認ム

五、安　東　瀨ノ口商議會頭、大津地方委員議長、新田商議理事

(イ)安東地方委員會トシテハ事ノ眞相不明ナル爲委員中兎角ノ評ヲナスモノアリト雖モ漏洩シタル案カ大使館ノ一試案ニシテ實行案ニアラサル點並ニ將來實行前ニハ各地ノ團体ニ諮問スルコトカ判明シタル以上靜觀主義ヲ採リタキモ奉天ニテ騒クコトハ極メテ迷惑ナリ

(ロ)今後他地ト假リニ共同動作ニ出ルコトヲ餘儀ナクサルルコトアリト雖モ眞相判明ノ上行動スルコトハ冷靜ノ態度ヲ失ハサル點ニ多大ノ利益ヲ有ス

(ハ)大使館ノ試案ナリト云フモ恐ラク本案ハ滿洲國日系官吏ノ案ニシテ要ハ漏洩ニヨル責任ヨリ大使館カ一身ニ試案ナリトシテ責任ヲ負ヒタルモノト認ム

(ニ)治廢、行政權返還後ニ於テ單一稅ニヨル課稅標準ヲ定メ最モ輕キ稅率ヲ課セラレタキコト

(ホ)現狀ニ於テ附屬地內ニ課稅權ヲ容認スル如キハ絕對反對ナリ

六、鐵　嶺　紀藤商議會頭、山田副會頭、(地方委員)下山商工會議所議員(地方委員)西尾、萩原、德本、河村各商工會議所議員、松崎商議理事

(イ)眞相判明シタル以上鐵嶺獨自トシテハ市民大會等開催ノ意思ナシ

(ロ)治廢、行政權返還ニ至ル迄ハ現狀ノ儘トシ治廢、行政權返還後ニ於テ課稅ハ漸增主義ノ方針ヲ採ラレタシ

七、開　原　千々和實業會長代理

(イ)九月一日市民大會開催ノコトニ決定シ居ルモ眞相ハ速ニ市民ニ傳ヘタシ

(ロ)開原ハ滿鐵公費スラ負擔至難ノ狀況ニアリ此ノ上ノ負擔ハ事實困難ナリ

八、四平街　鶴見市民協會長、島村評議員、伊藤地方委員議長、富藤市民協會書記長

(イ)現行ノ行政機構ニ於テ附屬地內ニ課稅權ヲ容認スル如キ案ニハ絕對反對ナリ

(ロ)假リニ行政機構改變ノ曉タリトモ高率ナル課稅ヲナス如キコトアラムカ在住民ノ發展ヲ阻碍シ其ノ及ホス影響甚大ナリ依テ大使館ハ愼重ニ在住民ノ利害休戚ヲ稽ヘ善處サレムコトヲ望ム

(ハ)四平街附屬地在住民ハ現在ノ滿鐵公費ニテモ可ナリ其ノ負擔ノ大ナルコトニ怨嗟ノ聲ヲ放チ居ルモノ多シ現狀ニ稽ヘ將來ノ課稅ハ當分單一稅ニヨル低率ナル課稅方針ニ出ラレムコトヲ望ム

九、新　京　石崎商議會頭、大原地方委員議長、得丸地委副議長、神崎地方委員

(イ)行政權ノ返還ハ滿洲國側ノ行政施設カ附屬地ノ行政施設ニ近接シ來リタル際ニ於テ行フコト

(ロ)附屬地外ノ課稅モ治廢後迄現狀ノ儘トスルコト

(ハ)行政權返還、治廢決行ノ曉タリト雖モ今次ノ大使館試案ニ現レタル如キ高率ナル課稅ヲ以テスルコトハ絕對反對ナリ須ク大使館ハ民意ノアルトコロト在滿邦人ノ經濟力乃至擔稅力ヲ充分調査シ公正妥當ノ課稅方針ヲ採ラレム事ヲ希望ス

(ニ)滿洲國ハ附屬地外ニ於ケル我商工業者ニ對シ滿洲人ト同樣均シク納稅ノ義務ニ應セシムヘク大正四年五月ノ日支條約ヲ云爲スルモ我國トシテハ多大ノ犧牲ト對償トヲ現ニ與ヘテ居リ單ニ課稅權乃至警察令ニ服セサルコトヲ問題トスルコトハ過去ノ歷史ト現狀トニ盲目ナルモノト稱スヘシ

以　上

540

昭和9年11月17日　在滿州国菱刈大使より広田外務大臣宛(電報)

付属地内における納税証明事務の黙認方満州国財政部より要請に対し条件付き黙認が妥当の旨意見具申

新　京　11月17日後発
本　省　11月17日後着

第一三二七號

今般財政部當局ヨリ當館係官ニ對シ今次ノ關稅及內國稅制ニ關聯シ滿洲國稅關吏ノ附屬地內ニ於ケル驗(1)訖證ノ貼附及徵稅問題等ニ關シ左記一、二、三ノ措置默認方非公式ニ申出アリ係官ニ於テハ右ハ實際上便宜ノ措置ナルヘキモ治外法權、附屬地行政權ニ直接關係アリ殊ニ關東廳側ノ意向ヲ徵スル必要モアルヘク旁本省ニ請訓ノ上何分ノ儀回答スヘキ旨答ヘ置キタル趣ナル處本件ハ今回ノ統稅廢止等ニ伴フ便宜ノ措置ト認メラルルノミナラス別ニ權力行爲ヲ許容スル次第ニモ非サルヲ以テ或ハ外交部次長ト當館參事官トノ間ニ於ケル極メテ非公式ナル文書ノ交換ニ依リ(イ)最少限度ノ事實上ノ措置(糧石稅問題等ニ關スル前例ニモ鑑ミ)ニ止メシメ權力行爲ハ全然之ヲ許ササルコト(ロ)關係當業者ノ希望ニ基クコト(ハ)檢(驗カ)訖證ノ容認ハ別ニ當該物品ニ對スル內國稅ノ賦課ヲ認ムル前提ニ非サルコト(ニ)前例トナラサルコト等ノ條件ヲ附シ之ヲ默認スルコト然ルヘキニアラスヤト思考セラル先方ハ成ル可ク速ニ當方ノ意向ヲ承知シ度シトノ

コトナルニ付至急御詮議ノ上御回電アリ度シ
一、[2]今次ノ税制改正ノ結果輸入品タル酒、卷煙草、麥粉、綿糸、「セメント」ニ對スル統税廢止セラレ右輸入品カ附屬地内ヨリ附屬地外ニ轉出ノ場合内國税ヲ免レシムル爲輸入地又仕向地ニ於テ驗訖證ヲ貼附セシムルコトトナリタルカ其ノ附屬地外ニ轉入ノ途次ニ於テ右ノ措置ヲ執ラシムルコトハ商民ノ不便鮮カラサルヲ以テ滿洲國税務官吏ハ附屬地内當該物件所藏者ノ要求ニ依リ隨時其ノ所在場所ニ於テ驗訖證ノ貼附及檢印ノ押捺ヲ爲シ得ルコト
二、内國税課税物件ト同種ノ附屬地内生産品カ附屬地外ニ移入セラルルトキハ之ニ内國税ヲ加徴シ納税濟タルコトヲ證明スル驗訖證ヲ貼附セシムル必要アル處其ノ移入ノ途次ニ於テ右ノ措置ヲ執リ又ハ執ラシムルコト商民ノ不便トスル所ナルヲ以テ附屬地内ノ當該物品生産者又ハ所藏者ノ要求ニ依リ其ノ工場又ハ所藏所ニ滿洲國税務官吏ヲ派遣シ事實上右内國税ノ徴收及驗訖證ノ貼附ヲ爲サシムルコト
三、前二項ノ措置ニ付日本側關係機關ニ於テ必要ナル協助ヲ爲スコト

尙滿洲國側ニ於テハ今次ノ輸入品ニ對スル統税廢止ニ拘ラス滿洲國産原料ニ依ル關東州内製造品ノ奥地移入ハ之ヲ輸入ニ非サルモノト解釋シ依然トシテ統税ヲ賦課スルコトトナリタル趣ナリ

奉天、營口、關東長官ヘ轉電シ新京ヘ轉報セリ

541　昭和9年11月20日　菱刈関東長官より　広田外務大臣宛（電報）

今次満州国関税改正につき我が方政府見解回示方請訓

旅順　11月20日後発
本省　11月20日後着

第三七號

滿發貴大臣宛電報第一三二七號ニ關シ
一、今次ノ税制改正ニ依リ輸入税中ニ統税ヲ包含セシメタルモノト解セラレ從テ輸入品ニ關スル限リ附屬地内ニ於テ消費セラルルモノニ對シテモ實質上内國消費税ヲ課セラルルト同一ノ結果ニ歸著スル處帝國政府ニ於テハ附屬地内ニ於ケル滿洲國課税權ヲ容認セラルル趣旨ナリヤ

二、當廳ニ於テ來年度ヨリ現行酒、煙草税令ヲ附屬地ニ施行豫定ノ處附屬地内消費ノモノニ對シテハ二重ノ課税トナリ支障アリ
三、酒ニ對スル統税賦課ニ付テハ治外法權ノ關係上從來之ヲ承認相成ラサリシ處今回之ヲ承認セラレタリヤ
四、特定税率ニ依リ關東州内製造品ヲ奥地ヘ輸入ノ際統税ヲ課セラレ居ルモノハ滿洲國産棉ノミヲ原料トセル綿絲ノミナルヲ以テ夫レ以外關東州産品ニ對シテハ内國消費税ヲ課セラレサルハ勿論附屬地内消費ノモノニ付テハ綿絲ニ對シテモ消費税ヲ課セラレサルモノナリ
五、輸入商品殊ニ麥酒ノ如キ小容器ノ各個並ニ綿絲ノ如キ外裝ニ驗訖證ノ貼付ヲ强要スルコトハ事實上種々ノ困難ヲ伴フモノナリ故ニ之ニ代ルヘキ便法ヲ考究スル必要アリト思料ス

滿、奉天、牛莊ヘ轉電セリ

542　昭和9年11月29日　在奉天蜂谷総領事より　広田外務大臣宛（電報）

付属地内での満州国側納税証明事務は煩瑣のため実施見合わせか当業者自身による証明書貼付とすべき旨意見具申

奉天　11月29日後発
本省　11月29日後着

第四四四號

貴[1]電合第一二二三號ニ關シ
一、過日來係官ニ於テ當業者（貿易業者及工業家）側ノ意見ヲ内査シタル處貿易業者ト工業家側トニ依リ多少意見ノ相違ハアルモ大体本制度ハ個々ノ商品ニ驗訖證ヲ貼附スルコトノ煩瑣ニ堪ヘサルコト又多數當業者ヨリノ要求ニ對シ税務官吏カ果シテ迅速ニ出張シ呉ルルヤ否ヤノ疑念等ヨリ其ノ實施ヲ歡迎セス元來本件ハ一、二附屬地内工場生産品ノ附屬地外密輸防止ヲ主トシテ設ケラレタルモノニ過キサル故局部的問題ノ爲ノ驗訖證及此ノ護照制度ノ如キハ寧ロ之ヲ全廢スルニ如カストノ意見ヲ抱ク者多ク現ニ事實上驗訖證貼附ヲ實施シ居ル東亞煙草ノ如キモ工場課税制度サヘ當業者側ニ有利ニ解決シ得ルナラハ本制度ノ廢止ヲ希望シ居ル如シ從テ附屬地内工場立入ハ當業者ノ希望ニ依ル場合ニノミ限ラレ居リ從テ主義上ハ問題

ハ無キモ當業者側カ未タ其ノ必要ヲ痛感セサル以前ニ我方ニテ進ンテ之ヲ容認シタルカ如キ印象ヲ外部ニ與フルコトハ徒ラニ當業者側或ハ反對分子ノ反對ヲ釀ス虞モ無キニアラサルヘシ

二、就テハ當業者側ヲシテ本制度ノ實施ニ馴致セシムル爲ニハ此ノ際滿洲國側ニ於テ進ンテ附屬地內ヘノ稅務吏立入承認ヲ希望スルカ如キ態度ヲ示メサス茲當分ノ間ハ多少ノ不便ハアルヘシト雖彼ノ分運照制度發給ノ例ニ準シ第四條ニ基キ當業者側ノ提出スル放行單ニ對シ稅務官吏ノ工場又ハ金庫立入リ無クシテ驗訖證ノ分割發給ヲ認メ當業者自身ノ自由貼附ニ委シ（其ノ結果消印不可能トナルヘキモ已ムヲ得サルヘシ）其ノ實施振ヲ見タル上更ニ考究ヲ加フルコト穩當ナルヘシ

三、[2] 尤モ卑見トシテハ本制度實施ニ對シ現ニ關東廳側ノ反對的意嚮モアリ且前記當業者側ノ態度ニモ顧ミ外務省側ニ於テノミ本制度ノ實施ヲ承認（假令默認ノ形ト雖）セラルルコトハ昨今ノ機微ナル在滿政狀ニ鑑ミ政策上得策ナラサルヘキヲ以テ此ノ際大使館側ヨリ滿洲國側ニ對シ本件實施ニ付テノ滿洲國側ノ見解ハ充分了解スルモ本件ハ必スシモ焦眉ノ問題ニアラサルニ付例ノ機構改革愈實施セラレタル曉ニ於テ前述工場課稅問題ト併セ此ノ種驗訖證乃至護照制度撤廢ヲ協定スル方賢明ナルヘキニ付夫レ迄ハ驗訖制度實施其ノモノヲ當分見合ハスカ已ムヲ得スハ前記第二項ノ便宜供與ニ依ラシムル樣懇談セラルルコト然ルヘキカト存ス

四、序乍ラ今回ノ滿洲國側布告ニ顧ミ邦人ノ製造ニ係ル酒ニ對シテモ國內稅ヲ課スルヤニ解釋セラルル處右ハ未タ我方ニテ最後的ニ承認ヲ與ヘ居ラサルモノト存セラルルニ付爲念

滿ニ轉電シ營口、安東ニ暗送セリ

543 昭和9年12月7日　広田外務大臣より 菱刈関東長官宛（電報）

今次満州国関税改正には条約上排除の理由なくまた関東庁の酒税など付属地内徴収は諸般の事情から見合わせが至当の旨回訓

本　省　12月7日後2時発

第二四號

貴電第三七號ニ關シ

一、滿洲國ニ於テハ今次ノ關稅改正ニ依リ輸入品ニ對スル內國稅課徵ヲ廢止シ右ニ依ル減收補塡ノ目的ヲ以テ當該物品ニ對スル關稅率ヲ引上ケ居ル處右ハ形式並ニ事實上關稅トシテ賦課セラル丶モノナルニ付條約上之ヲ排除ノ理由ナシト思考シ居レリ

二、酒及煙草稅令附屬地內施行ノ件ハ對第三國人關係ニ於テ困難ナル問題ヲ生スル惧アルコト及其他諸般ノ事情ニ鑑ミ實施ハ此際見合サル丶コトト致度

三、從來輸入品又ハ附屬地內製產品ニシテ附屬地外ニ搬出セラル丶モノニ付キ邦商等ニ於テ事實上ノ必要ニ基キ統稅酒稅其他或種ノ內國稅等ヲ納付シ居リタルモノアリ此等ノモノニ付テハ諸般ノ關係上默認ノ態度ヲ取リ來リタル處右ハ條約上ノ建前トハ別個ノ單ニ事實上便宜ノ措置ニ過キサルモノナリ

四、貴電五御來示ノ點ハ考究ノ要アリト認メ居レリ

在滿大使ヘ轉電セリ

544 昭和9年12月7日　広田外務大臣より 在満州国菱刈大使宛（電報）

付属地内での満州国側納税証明事務については便宜上の措置として条件付きで黙認方回訓

付　記　昭和十年一月二十三日付在満州国南（次郎）大使より広田外務大臣宛公信公機密第一〇九号

右默認條件

本　省　12月7日後2時発

第一一六八號

貴電第一三二七號ニ關シ

一、驗訖證乃至護照制度等ノ撤廢カ望マシキハ勿論ノ儀ナルモ其ノ急速廢止ニ關シテハ滿洲國トシテモ諸般ノ困難アルヘキヲ以テ其ノ間貴電御來示ノ如キ便宜措置ヲ講スルコトハ右カ關係邦人ノ便宜乃至要望ヲ基礎トスルモノナル限リ綿糸、煙草等ノ前例ニモ鑑ミ止ムヲ得サルヤニ思考ス

二、尤モ奉天來電第四四號等ノ次第モアルニ付貴館ニ於テ關係方面トモ充分御聯絡ノ上本件實施カ關係邦人ノ利益トノ御見込ナルニ於テハ左記ニ依リ默認セラレ差支ヘナ

シ

(1)本件默認ハ文書交換等ノ形式ニ依ラス單ニ事實上ノ措置トスルコト

(2)貴電二ノ内國稅課稅物件ハ酒、卷煙草、綿糸、セメント、麥粉ノ五種ニ限ルコト

(3)關東長官來電第三七號五ノ點ニ關シテハ財政部側トモ御協議ノ上便法ヲ考究シ置クコト

(4)其他貴電(イ)乃至(ニ)御來示ノ諸條件

三、尙驗訖證及護照制度等ノ如キ通商ノ障碍トナル制度ハ滿洲國側ヲシテ成ルヘク速ニ廢止セシムルコト必要ト認メ居ルニ付右併セテ財政部側ト御懇談置相成度

奉天、營口、安東、關東長官ヘ轉電セリ

新京ヘ轉報アリ度

（付　記）

公機密第一〇九號　　（昭和10年1月28日接受）

昭和十年一月二十三日

在滿洲國

特命全權大使　南　次郎〔印〕

外務大臣　廣田　弘毅殿

昭和十年一月二十三日附
合機密第七七號　新京外三箇所宛往信寫送付

件　名

一、滿鐵附屬地内ニ於ケル滿洲國稅務官吏ノ國稅收受及驗訖證貼付等ニ關スル件

合機密第七七號

昭和十年一月二十三日

在滿洲國

特命全權大使　南　次郎

滿鐵附屬地内ニ於ケル滿洲國稅務官吏ノ國稅收受及驗訖證貼付等ニ關スル件

本件滿洲國側申出ニ對シ今般別紙寫ノ如キ條件ニ依リ之ヲ默認シタルニ付委細右寫ニ依リ御了悉ノ上可然措置アリ度シ

本信送付先　新京、奉天、安東、營口

本信寫送付先　外務大臣

（別　紙）

滿鐵附屬地内ニ於ケル滿洲國稅務官吏ノ國稅收受及驗訖證貼付ニ關スル滿洲國側申出ニ對スル大使館側意嚮

曩ニ滿洲國財政部係官ヨリ當館係官ニ對シ内協議アリタル滿洲國官吏ノ滿鐵附屬地内ニ於ケル驗訖證ノ貼付及國稅收受ニ關スル附屬書(覚書)記載ノ件ハ治外法權、附屬地行政權及關東州ノ地位等ニ直接間接重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ條約ノ改正其ノ他適法ノ措置ヲ孰(執カ)ルニ非レハ之ヲ承認スル能ハサル所ナルモ右計畫ハ滿洲國側ノ内國稅整備及關稅改正等ニ伴フ便宜ノ措置ト認メラルルノミナラス其ノ運用ノ如何ニ依リテハ關係當業者ノ便利モ亦尠カラサルヘシト思考セラルルヲ以テ大体左記條件ノ下ニ之ヲ默認スヘシ

一、輸入品ニ對スル驗訖證ノ貼付及檢印(附屬地内發貨地ニ於テ之ヲ爲シ大連稅關ニ於テセサルコト)竝附屬地生產品ニ對スル内國消費稅ノ收受及驗訖證ノ貼付ハ嚴ニ事實上ノ行爲ノ範圍内ニ止マルヘク權力的行爲ハ一切之ヲ避クルコト

二、右何レノ場合ニ於テモ關係當業者ヨリ要求アリタル場合ニ限ルコト

三、本件ハ日本人又ハ日本品若ハ附屬地生產品ニ對スル滿洲國ノ課稅權ヲ新タニ承認スルモノニ非ス從テ本件内國稅課稅物件ハ從來默認セラレ居ル卷煙草、綿絲、「セメント」、麥粉ノ四種品目ニ限定セラルヘク(酒ノ統稅容認問題ハ別個ニ之ヲ考量スルコト)又驗訖證ノ貼付無キ事實ヲ以テ直ニ當該品ニ對スル滿洲國ノ課稅權ヲ認ムルモノニ非ルコト

四、内國稅ノ收受竝驗訖證ノ貼付及檢印ヲ如何ナル方法ニ依リ實行スルヤノ詳細ナル具体的措置ハ豫メ日滿兩國側協議ノ上之ヲ決定スルコト

五、日本側機關ノ共助トハ單ニ便宜ヲ供與スルコトニシテ權力的行爲ニ依ル援助ヲ意味スルモノニ非サルコト

六、今回ノ默認ハ之ヲ他ノ同種問題ニ對スル先例トセサルコト

七、本件實施後ノ成績ニ鑑ミ之カ改正ノ必要ヲ認メタルトキハ何時ニテモ協議改正スルコト

八、滿洲產原料ニ依ル關東州内生產品ニ對シ輸入品ニ非ストノ見解ニ依リ統稅ヲ賦課スルコトハ之ヲ承認スル能ハサルコト(但シ事實上ハ從來通リ本件統稅賦課ヲ默過スヘシ)

六、驗訖證及護照制度ノ如キ通商ノ障害トナル制度ハ成ルヘク速ニ之ヲ廢止セラレタキコト

545　昭和9年12月28日　在奉天蜂谷総領事より広田外務大臣宛(電報)

関東庁による酒税など付属地内課税実施は満州国との間に紛糾が免れない旨意見具申

奉　天　12月28日後発
本　省　12月28日後着

第四六六號

貴大臣發滿宛電報第一二二七號ニ關シ

一、關東廳當局カ新機構ニ依ル關東局ヲ以テ關東廳ノ新京進出ト考ヘ附屬地ニ對スル同廳從來ノ方針ヲ其ノ儘關東局ニ依リテ實行セントスルコトハ機構改革ノ根本精神ヲ沒却シタルモノニテ殊ニ本件ノ如ク關東局ニ對シ附屬地内ニ於ケル新ナル財源ヲ與フルコトハ將來益々附屬地行政權ノ返還ヲ困難ナラシムルモノナルヘク寧ロ此ノ機會ニ附屬地阿片專賣制度ノ撤廢ヲ爲スコトコソ今次機構改革ノ根本方針ニ副フモノト思考ス

二、關東廳カ附屬地ヲ帝國領土視シ之ニ强制力ノ伴フ課税權ヲ行フコトハ第三國人トノ關係上論議ヲ生シ易キハ御承知ノ通ニテ先般モ滿洲國税務當局來館ノ際偶々本件ニ言及シタル處滿洲國ノ關税線ヲ飛ヒ越ヘ日本政府ノ國内税ヲ認ムルコトハ理論的ニモ困難ナリト反對シ居リタリ又酒煙草類ハ附屬地外消費カ大部分ナルニ之ニ關東局ノ消費税ヲ課ストセハ事實上關東局ノ消費税ヲ附屬地外ニ適用スル結果トナリ面白カラス假ニ附屬地内消費ノ分ニノミ課セントスルモ技術的ニ種々ノ困難ヲ伴ヒ延テ滿洲國トノ間ニ紛糾ヲ免レサルヘシ

滿、營口、安東ヘ轉電セリ

3　列国の対満経済発展活動

546　昭和9年1月8日　在英国松平大使より広田外務大臣宛(電報)

日満両国を往訪した英国化学会社社長との満州国門戸開放問題などに関する意見交換について

ロンドン　1月8日後発
本　省　1月9日前着

第五號(極秘)

數(日)前S. W. Harry McGowan本使ヲ來訪シ過日渡日セル所我カ國朝野ヨリ受ケタル好意ヲ謝シ次官ヨリ日本政府ハ日英親善ニ努メラルル御方針ナル(旨)承ハリ歸來自分モ其ノ目的ノ爲微力ヲ盡ス積ナル處今日日本品カ過當ノ廉價ニテ各地ニ輸出セラルルコトハ鮮カラス英國其ノ他各國ノ神經ヲ刺戟シ居リ競爭緩和ノ爲何等カノ有效ナル措置ヲ執ラサルニ於テハ國交平和(上)惡影響ヲ及ホスコトアルヘキヲ惧ル自分ノ關係スル處ニテモ硫酸「アンモニア」及曹達灰カ日本ヨリ印度米國等ニ廉賣セラルル爲英國側ニテハ殆ト之ニ對抗出來サル狀態ナリ本件ニ付テハ競爭緩和ノ爲他日具体的ノ申出ヲ爲ス考ナリ次ニ自分ハ滿洲ヲ視察セル結果百聞ハ一見ニ如カスト例ノ如ク同地方ノ日本(ノ)行動ニ對シ政治的ニ彼是云フヘキ事態ニ非サルコトヲ感スルニ至リタルモ唯遺憾ナルハ滿洲門戸開放主義カ充分遵守セラレ居ラサルコトナリト述ヘタルニ付本使ハ右ニ付何等具体的ノ例アリヤト尋ネタルニ自分ハ英國品カ廉(價)ナルニ拘ラス落札セラレサリシ實例ヲ承知セリトテ其ノ後客年十一月二日彼ノ滿洲國代理店タルA. Camron會社ヨリblasting gelatin及gelignite各三千箱ヲ滿鐵ニ納入スル件ニ關シ値段問合セノ電報アリタルニ付非常ニ廉價ニテ入札セシメタル處十一月二十四日附ニテ前記代理店ヨリ右入札セル「ブラスチングジエラチン」ノ値段ハ日本製造業者ニ比シ多少低廉ナリシニ拘ラス滿鐵ハ日本品ヲ購入スルニ決シタル旨云ヒ渡サレタルカ右樣ノ次第ナレハ將來滿洲ニ於ケル賣込ハ見込薄ナルカ如シトノ書面ニ接シ居ル趣申越シ來レリ

客年八月二十二日附機密第一〇七(三〇七ヵ)(編注)號拙信工場設置計畫ニ關スル支那側トノ交渉振ヲ質問セル處右ニ關シテハ渡支後二三週間宋子文トノ間ニ話ヲ進メ可ナリ進捗シタル矢前ニ宋